



京都大学技術士会 第20回講演会

(イブニングセミナー東京)

地震発生予測の難しさと震災軽減に向けた予測への挑戦

日時：令和7年3月17日(月) 17:00～18:10(会場受付開始16:30)

会場：京都大学東京オフィス 大会議室A・B

及び、オンライン講演会

主催：京都大学技術士会

後援：公益社団法人 日本技術士会

※本講演会はどなたでもご参加いただけます。

※本講演会は、会場開催とオンライン開催の同時開催となります。

講師：堀 高峰 様

国立研究開発法人海洋研究開発機構・海域地震火山部門・
地震津波予測研究開発センター・センター長・首席研究員

静岡県立大学客員教授、名古屋大学減災連携研究センター客員教授、静岡大学非常勤講師、防災科学技術研究所客員研究員、地震調査研究推進本部地震調査委員会委員、地震予知連絡会委員、日本地震学会代議員、HPCIコンソーシアム理事、博士(理学) 専門は地震学(地震発生予測)

経歴 1989年京都大学理学部入学、1998年京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻で博士(理学)の学位取得。日本学術振興会特別研究員を経て1999年から海洋研究開発機構(旧海洋科学技術センター)研究員。2019年から現職。西南日本の活動期を課題として修士論文執筆していた際に、活動期の開始を示す兵庫県南部地震が発生。活動期の原因となる南海トラフ地震を研究するために海洋研究開発機構で研究員となり、当時世界最速だった初代「地球シミュレータ」を用いた南海トラフ巨大地震の繰り返し発生のシミュレーションを実現。近年は、海底でのリアルタイム観測とデータ解析によるプレート動きの現状把握と、シミュレーションを活用した推移予測システムの開発に取り組むとともに、大学で開発された揺れに備えるための地震動の大規模シミュレーションを企業が実施するサポートを「富岳」のプロジェクトで行っている。



講演内容：

地震予知にもとづいて国が警戒宣言を出して社会のシステムを止める仕組みが数年前に停止され、代わりに始まった仕組みの南海トラフ地震臨時情報が昨年初めて発表されました。その背景となった地震発生予測の難しさがどこにあるのをご紹介致します。また、地震の力学モデルにもとづく予測で何をめし、どのような課題に取り組んでいるのか、そのために地球深部探査船「ちきゅう」やスーパーコンピュータ「富岳」等をいかに活用しているのかをご紹介致します。

参加人数：会場参加 50名程度、

オンライン参加 Zoom90名、YouTube人数制限なし

参加費：会場2000円、懇親会2000円、オンライン無料

- ・講演会終了後、同会場にて簡単な懇親会を行いますので、ふるってご参加ください。
- ・会場参加費、懇親会費は当日、受付にてお支払いください。

申込み方法(インターネットで申込みをお願いします)

- ・京都大学技術士会のホームページ <http://ku-pe.net/> の「講演会・交流会のご案内」から申込みください。

講演会会場：京都大学 東京オフィス 大会議室

(新丸の内ビルディング10F)

JR、東京メトロ丸ノ内線「東京駅」直結

